花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和７年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合　○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資　料　2

地区部会エリア	基本方針	重点取組項目	取組項目	令和７年度 目標又は予定	令和７年度 実績 ※任意記載として、振り返り（感想）	達成状況	令和８年度 目標又は予定	今後の課題と方針
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,205人、　7,297世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 18.5% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町。	**２　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・地域内の高齢者を対象にお困り事等のアンケートを取り、どう進めていくかを検討する。同時に支援員の募集を行う。	・地域としての行事が多く、いろいろな状況の中で活動できていない。	×	・アンケートの結果から、具体的にどう進めていくか検討し行動する。	・時間をみつけて話し合える機会を作っていきたい。
	３　地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑪ ・地域での声かけをしたり、地域でのイベント、区報紙（地区部会だより）、区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの発掘や育成に努めます。	・広報紙や区ボランティアセンターを通じてボランティア募集活動に努める。	・地域として活動できていない。	×	・広報紙や区ボランティアセンターを通じてボランティア募集活動に努める。	・声かけだけは続けていく。
	３　地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑬ ・地域住民やこどもに地域の魅力や福祉をテーマとした研修・講座を開催します。 ・地域住民やこどもに地域福祉活動の体験の場を提供します。	・ボランティア養成講座を開き、1人でも多くの人に地域福祉活動を知ってもらい興味を持ってもらう。	・２月に子ども工作教室を開催した。	△	・ボランティア養成講座を開き、1人でも多くの人に地域福祉活動を知ってもらい興味を持ってもらう。	・あきらめずに計画を立て、参加をうながすしかないのではと考える。
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 21,220人、　10,396世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 23.8% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古くからの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地（高層マンション群を含む）からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	**２　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	○	④ ・隣近所や地域において、あいさつ・声かけによる気配り・心配りを行い、顔の見える関係づくりに努めます。	・花園地区部会の伝統的な活動及び「花園おせっかい」活動を通じて、住民同士の顔の見える関係づくりに努める。 ①高齢者福祉：敬老会・ふれあい食事会 ②児童母子：子育てサロン・親子の集い（音楽会など） ③健康福祉：公園清掃・グラウンドゴルフ ④ボランティア：いきいきサロン ⑤福祉ネット：啓発ポスター・チラシの作成・見守り新鮮情報　⑥広報：地区部会だより ⑦重点取組み項目：「花園おせっかい」「避難所に関する情報交換」「イベントの再開対応」 ⑧防災訓練の実施：各避難所の避難所開設・運営訓練 ①～⑧を実施する。	花園地区部会の伝統的な活動及び「花園おせっかい」活動を通じて、住民同士の顔の見える関係づくりに努める。 ①高齢者福祉：全体での敬老会（会場使用不可）・自治会単独実施（ガーデンプラザ、花園一二三会、花園親交会）・「ふれあい食事会」10/30、花園公民館高齢者７２名・お茶会１回 ②児童母子：子育てサロン実施（第１・３木）・親子の集い（音楽会花園中吹奏楽部） ③健康福祉：むくどり公園清掃とグラウンドゴルフ（２７回） ④ボランティア：いきいきサロン（１２月まで５９回） ⑤福祉ネット：ポスター・チラシの作成・見守り　新鮮情報 ⑥広報：地区部会だより（年３回） ⑦重点取組項目「花園おせっかい」「避難所に関する情報交換」：チラシ・ポスター ⑧防災訓練の実施：各避難所（花中・花小・瑞穂小・花園公民館・大型自治会）の避難所開設・運営訓練に参加	○	花園地区部会の伝統的な活動及び「花園おせっかい」活動を通じて、住民同士の顔の見える関係づくりに努める。 ①高齢者福祉：敬老会・ふれあい食事会 ②児童母子：子育てサロン・親子の集い（音楽会など） ③健康福祉：公園清掃・グラウンドゴルフ ④ボランティア：いきいきサロン ⑤福祉ネット：啓発ポスター・チラシの作成・見守り新鮮情報 ⑥広報：地区部会だより ⑦重点取組み項目：「花園おせっかい」「避難所に関する情報交換」「イベントの再開対応」 ①～⑦を実施する。	②子育てサロン　認知度が上がって参加者が増えてきているが、担当者の負担も増えている。ボランティア制度とは言いながら、やはり負担を減らす方策を考える必要がある。 　親子の集いとして実施しているスプリングコンサートは花園中の生徒さん頼りになっているが、なんとか継続をしていきたい。 ③公園清掃をした後のグラウンドゴルフはすっかり定着しているが、一定数以上には増えない。地域からも感謝されているので、PRを増や必要がある。 ④いきいきサロン　もっと広げていきたいが、世話人に限定がある。自治会レベルでのPR が必要。啓発方法を考える必要がある。 ⑤⑥⑦いずれも「花園おせっかい」として粘りが必要である。 ⑧自治会レベルの防災活動に範囲を広げた活動で、理解を得る必要があるが、手を出している。継続性か求められる。
	２　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑦ ・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	避難所に関する情報交換 ・感染症対策を含んだ避難所計画の立案、機材の準備はまだ十分でない。能登半島地震での教訓を踏まえて、大型地震の対策について考える。また普及ため「花園おせっかい活動」のチラシ・ポスターを活用。「花園地区部会の伝統的な活動」の安定的な実行について、地域の力を結集していきたい。具体的には、「敬老会・ふれあい食事会・親子の集い・スプリングコンサート・子育てサロン・公園清掃・グランドゴルフその他のイベント等」の実施ができる体制を整備。	「花園お節介」のPR、各種行事への参加・PR ・チラシ・ポスター・回覧を通した啓発活動実施中 ・体育祭への参加（10/19（日）） ・花園ハスまつりへの参加7/19・20（子ども行進・観蓮会）・納涼まつり（各自治会の夏祭り）・花園文化祭・花見川区民まつり ・大賀ハスのふるさとの会への参加（通年） 各種地域活動への参加 ・民生委員児童委員協議会・自治会活動（単位自治会）・花園地区町内自治会連合会 ・花園中学校区（第７地区）町内自治会連絡協議会 ・学校行事・地域づくり支援連絡会など	○	避難所に関する情報交換 ・各活動班における感染症対策を検討する。また、自主防災活動や指定避難所の避難訓練に社会福祉協議会として積極的に参加する。活動のチラシ・ポスターを活用した災害対策を行う。災害時、社会福祉協議会が持つ支援者リストや、各委員会の参加者情報は、災害発生時自主防災会や指定避難所運営委員会に活かすようにする。	・「花園おせっかい」は、こちら側から声をかけて、お手伝いをするというところから出発している。当部会としてはこの趣旨に沿って業務に当たることにしているが、難しいところである。 ・人手不足が一番大きな障害であるが、急には解決できない。 ・自治会等との連携に一層努力をしていきたい。
	４　安全・安心なまちづくり	○	⑮ ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	・各避難所では避難所運営委員会により、防災マニュアルや防災マップを活用して、避難所訓練を行っている。また、災害時の安否確認、分散避難食料支援などは避難所ごとの条件が異なり、それぞれの自治会の判断により、多少違いがみられる。 引き続き、社協の立場、対応方針、訓練参加などについて関係機関と情報交換を密にして、対応していく。	・各避難所運営委員会への参加 ・瑞穂小学校避難所運営委員会による避難所開設訓練と避難所の備品調査等へ参加した。 ・福祉ネットワーク委員会による「花園地区自治会における自然災害対策」についてガーデンプラザ防火防災会の実施例をベースとしたアンケート調査を実施中。 ・花園地区で使用している「防火防災組織と任務分担」の「マニュアルの有無」について調査中。 ・大型自治会（花園文化会など）の事例の水平展開。	△	・各町内自治会や市の指定避難所が行う避難訓練に参加する。また、防災マニュアルや防災マップなどの情報収集を行う。災害時の安否確認、分散避難、食料支援など社会福祉協議会としてどのような支援ができるか、指定避難所運営委員会や自主防災会活動と連携を密にしていく。 引き続き、自主防災会や市が発信する防災情報について、情報収集をしていく。	・昨年度に引き続き、ネットワーク委員会により左記のアンケート調査を元に、未整備の自治会に水平展開を図っているが、まだ成果は上がっていない。原因は避難所をいくつかの自治会が共同で利用することになるので、簡単に整理がつかないと思われる。話し合いの糸口はできたので期待している。社協としてはおせっかいの縁は乗り越えたので、避難所運営委員会にお願いしたいのだが、なお話し合いは続けていきたい。 ・防災関係はどうしても自治会主動であり、社協としてはやりづらいものがある。今後の大きな課題である。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和７年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合　○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資　料　2

地区部会エリア	基本方針	重点取組項目	取組項目	令和７年度 目標又は予定	令和７年度 実績 ※任意記載として、振り返り（感想）	達成状況	令和８年度 目標又は予定	今後の課題と方針
朝日ケ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,466人、　5,526世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 39.3% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	**1　心身の健康と交流の場づくり**	○	③ ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	・ふれあい食事サービス、ふれあい喫茶、ふれあいコンサート、障害者バス旅行、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操、歌声喫茶など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施していく。 ・スタッフの増員や会場の再検討など、事業内容の拡充を図る。	・歌声喫茶の復活を最後に、コロナ以前の活動をすべて取り戻した。 ・ふれあい食事サービス、障害者バス旅行、交流サロンふれあい、いきいきサロン、子育てサロン、介護予防体操、歌声喫茶など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施し、コロナ以前の活動レベルを回復している。 ・ふれあいコンサートは、これまで出演をお願いしてきた地元出身の音大生が社会人になり、スケジュール調整が難しくなって実施できなかった。代わりにふれあい喫茶の簡易型（セルフサービス方式の茶菓の提供）として新たに「おしゃべり広場」を一回実施した。 ・全体的に、多くの活動で従前の規模を取り戻し、時に予想以上の参加者に驚くという状況も生まれている。	○	・ふれあい食事サービス、ふれあい喫茶、ふれあいコンサート、障害者バス旅行、いきいきサロン、子育てサロン、健康体操、歌声喫茶など、交流と介護予防活動に重点を置いて実施していく。 ・スタッフの増員や会場の再検討など、事業内容の拡充を図る。	・回復した現在の活動を維持する。 ・スタッフの高齢化が進んでおり、新たな活動に取り組むことは困難な状況である。 ・障害者バス旅行については、千葉市の助成方式の変更に伴い、バス料金や事務手続きの負担が大きくなることが予想され、実施が困難になることが懸念されている。
	2　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、ＮＰＯ、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	・復活した活動の内容充実を図る。 ・令和８年度に地区部会創立３０周年を迎えるため、３０周年記念事業の準備を行う。	・アフターコロナ、もしくはウィズコロナの状況に合わせて、従来の活動を復活、再生することができた。 ・あんしんケアセンターにれのき台の運営組織変更に伴い、改めて連携の在り方を協議し、活動を開始した。その結果、従来通り、あんしんケアセンターとの連携による講演会（「交流広場ふれあい」）を２回および、「おしゃべり広場」会場での相談ブースの開設することができた。 ・「交流広場ふれあい」の３回目は口腔ケアをテーマに３月に実施予定である。 ・地域運営委員会、中学校の学校評議会、公民館の運営懇談会、朝日ヶ丘小学校区体育祭が再開され、それぞれ部会長が出席した。 ・地区内の高齢者福祉施設３施設との運営推進会議は、１カ所を除いて再開している。	○	・復活した活動の内容充実を図る。 ・令和９年度に地区部会創立３０周年を迎えるため、３０周年記念事業の準備を行う。	・スタッフの高齢化が進んでおり、新たな活動に取り組むことは困難な状況である。 ・地区部会開設３０周年の事業は、簡素なものを行う予定である。 ・中学校の土日休日の活動の中止に伴い、社協の活動の場としての利用が困難になる可能性があるが、中学校との協議により、継続を図りたい。
	3　地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、ＳＮＳ、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	・広報紙の内容充実を図る。	・これまでの広報紙発行を続けながら、SNSを通しての広報活動の方策の検討（他地区の事例調査、広報に関する住民、関連団体の意向調査など）を始めたが、有効な手段が見えてこない。 ・前年度より広報紙面の構成を刷新し、写真が多く見やすい形に変え、継続している。 ・地区内自治会等の掲示板を用いての広報を強化している。 ・地区部会常任理事会において、とくに人員拡充に関する方策案を各委員会に求め、それを軸に、広報に特集記事を掲載した。 ・昨年度に引き続き、地区の文化祭において、地区部会の活動を広報するためのパネル展示を行った。その結果、新たに１名の参加希望者を得ることができた。	○	・広報紙の内容充実を図る。	・管内自治会の会員の高齢化、減少が続いている。令和６年度で解散する自治会も出てきた。自治会から退会した高齢世帯、自治会に加入しない若い世帯への広報がますます困難になる。 ・社協スタッフの高齢化も続いているが、積極的な募集活動を続ける。 ・地区内自治会等の掲示板を見てイベントに参加する方が多いことが分かり、掲示板を用いての広報を強化している。 ・地区部会創立３０周年事業は、簡素なものを予定している。
犢橋地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,324人、　5,616世帯 【町内自治会数】 14町内自治会 【高齢化率】 30.2% 【地域の特徴】 昔からの農村地域（犢橋町）と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	**1　心身の健康と交流の場づくり**	○	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・「フードパントリー」「夏休みカレー食堂」や「餅つき大会」を開催する。 ・花見川いきいきプラザとタイアップして高齢者向けイベントを開催する。	・「子ども食堂」の一環として、フードパントリー開催（4月～２月の年間6回開催） ・「夏休みカレー食堂」の継続開催→夏休み中に５回開催（参加人数はほぼ前年並み） ・子供向け「おもちつき大会」継続開催（11月30日） →参加者向け発券枚数：子ども６９枚、大人７０枚、スタッフ２９名	○	・５年間で再開できたこと、実施できたことの総括と発展を図る。	・今後も左記３行事の継続開催と共に、子どもと高齢者をつなぐ行事も考えていきたい。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和７年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合　○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資　料　2

地区部会エリア	基本方針	重点取組項目	取組項目	令和７年度 目標又は予定	令和７年度 実績 ※任意記載として、振り返り（感想）	達成状況	令和８年度 目標又は予定	今後の課題と方針
こてはし台中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,176人、　2,462世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 31.0% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村	**２　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・見守り対象者の現状把握と見直しを継続して推進する。 ・各支部単位で、福祉活動推進員、自治会を含めた活動（情報交換、共同行動）を強化する。 ・見守り対象者とのコミュニケーション手段としての「見守りたより」を２回発行する。 ・生活支援のニーズを把握し、できるところから支援を実施する。（自治会との協働）	・11月に見守り対象者を含めた「ふれあい秋フェスタ ～ボッチャを楽しもう～ 」を開催した。（約７０名が参加） ・12月にボッチャ大会の報告を兼ねた「見守りたより」を発行、3月にも「見守りたより」を発行し見守り対象者、町内自治会に配布・回覧した。 ・各支部のふれあいサロン活動、食事会を継続実施した。 ・２月に約６０名参加の地区全体の食事会を実施、併せて地区の情報交換を実施した。 ・地域にある「県立特別支援学校」主催の防災イベントや授業参観などに参加し、交流と理解を深めた。 ・見守り活動を継続実施。	○	・見守り対象者の現状把握と見直しを継続して推進する。 ・各支部単位で、福祉活動推進員、自治会を含めた活動（情報交換、共同行動）を強化する。 ・見守り対象者とのコミュニケーション手段としての「見守りたより」を２回発行する。 ・生活支援のニーズを把握し、できるところから支援を実施する。（自治会との協働）	・見守り活動の継続実施と各支部のふれあいサロン活動の開催 ・ボッチャなどのイベント開催 ・広報活動の継続実施 ・横戸台では、見守り希望者が増えているため、今後検討が必要である。
幕張・武石地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,796人、　3,010世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 19.9% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。	**１　心身の健康と交流の場づくり**	○	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・ふれあいいきいきサロンを月２回実施する。 ・ふれあい食事サービスを年４回実施する。	・「ふれあいいきいきサロン」は、月２回実施するとともに、内容の充実が図られた。 ・「ふれあい食事サービス」は、年４回、会食及び配食での実施が図られた。	○	・ふれあいいきいきサロンを月２回実施する。 ・ふれあい食事サービスを年４回実施する。	・ふれあい食事サービスにおいては、今後町内会館での会食人数を、現在の１０人から２０人程度に増やしていきたい。
	２　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑦ ・災害時要支援者支援体制を構築します。そして、体制構築後は、体制の充実・強化を図り、研修会や訓練などを実施します。	千葉市から新しく提供される要支援者名簿に基づき、対象者の見直しを行い、再度要支援者宅を訪問する。	・令和７年度の避難行動要支援者名簿に基づき、対象者の見直しを行うとともに、支援者宅の訪問を行った。	○	千葉市から新しく提供される要支援者名簿に基づき、対象者の見直しを行い、再度要支援者宅を訪問する。	・支援者の日々の訪問及び観察について、今後民生委員等の力を借りて実施していきたい。
	２　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑧ ・認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座の開催や声かけ訓練などを実施します。	関係機関と連携を図りながら、会員相互のステップアップのための講座を開催する。	・部会研修として、１２月７日に社協花見川区事務所による「災害時の支援・地域との連携」を考える講座を実施し、災害時の地区部会のあり方を考えることができた。	○	関係機関と連携を図りながら、会員相互のステップアップのための講座を開催する。	・担い手のステップアップを目的に、介護予防や認知症予防のため、様々な講座を毎年開催し、地域での支援体制を構築する。
花見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,344人、　5,655世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 39.4% 【地域の特徴】 戸建住宅（昭和30年代後半より入居）、農林地帯、UR団地（分譲）、マンション群の混在地域。	**１　心身の健康と交流の場づくり**	○	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・ふれあい３事業を９５サークル。 ・敬老会の開催、地区子ども会行事の開催。	・ふれあい３事業は12月末現在で７３サークルが活動中。 ・敬老会は７カ所(７会場)で開催。出席者総数４２４名。出席率23.4%。 ・柏井地区子ども会育成連絡会 主催「みんなで歩いてビンゴ」11／22開催。 　ビンゴカード提出数90名 ・地域参加支援事業（健康課）６自治会１９回（令和７年度開催中）。	○	・ふれあい３事業を７５サークル。 ・敬老会は単独開催で開催箇所を１０カ所（１０会場）目標にサークル開催の促進。 ・子供を含めた地域活動の促進。 ・地域参加支援事業（元気会など）と健康寿命延伸プロジェクトの開催回数の増加。	・ふれあい３事業は高齢化に伴い減少傾向にあり、現状維持に努めたい。 ・敬老会は単独開催で開催箇所を１０カ所(１０会場)目標にサークル開催の促進。 ・子供を含めた地域活動の促進。 ・地域参加支援事業（元気会など）開催回数の増加。
	２　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・見守り活動の推進 ・子ども会行事にコラボして見守り訓練 ・地域ケア会議の開催	・見守り活動実施中（２自治会・対象者２８人） ・地域ケア会議４カ所１１自治会で１１回開催。（あんしんケアセンター主催）。 ・「みんなで歩いてビンゴ」声かけ認知症クイズを併催。	○	・地域ケア会議の拡大。目標１７自治会全てに。 ・要支援対象者へのフォロー体制の構築。 ・子ども会行事にコラボして見守り訓練。 ・地区部会研修会を通じて支援体制の構築。	・地域ケア会議の拡大。目標は１７自治会全てで実施。 ・要支援対象者へのフォロー体制の構築。 ・研修会を通じて支援体制の構築。
	４　安全・安心なまちづくり	○	⑮ ・防災訓練を実施します。 ・避難所開設・運営訓練を実施します。 ・新型コロナウイルス等感染症に対応した避難所運営委員会マニュアルの見直しを行います。	・防災、防犯活動の実施。	・防災、防犯パトロールの毎月実施。 　３自治会１２地域 ・歳末防災防犯パトロールの実施。 　４自治会９８名参加 ・防災訓練の実施。 　５自治会４カ所 ・研修会－災害時の地域連携について 　（12/20花見川公民館・４０名参加） ・その他　防犯カメラ設置。 　避難所運営委員会研修会参加　各１自治会	○	・防災・防犯パトロール、防災訓練の推進。 ・未実施地域への呼びかけ。 ・地区部会研修会開催―千葉市の防災対策（市政出前講座）	・防災・防犯パトロール、防災訓練の推進。 ・未実施地域への呼びかけ。 ・研修会―地域の防災対策について（市政出前講座）。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和７年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合　○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資　料　2

地区部会エリア	基本方針	重点取組項目	取組項目	令和７年度 目標又は予定	令和７年度 実績 ※任意記載として、振り返り（感想）	達成状況	令和８年度 目標又は予定	今後の課題と方針
花見川第２地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,714人、　6,617世帯 【町内自治会数】 9町内自治会 【高齢化率】 39.3% 【地域の特徴】 花見川団地を中心とした住宅地。地区内には図書館、市民センター、児童福祉センターなどが整備されている。	**２　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	○	⑥ ・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・支え合い活動の継続実施 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・花見川団地内で実施している支え合い活動「ハンド　ハンド」を継続実施した。主な活動は、家具の移動、電灯の交換、粗大ゴミ降ろし、話し相手、ごみ捨て、掃除など であった。 ・活動の普及・啓発については、８月・２月に地区部会だよりを発行し、地区部会活動の紹介を行った。	○	・支え合い活動の継続実施 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・他地域でも、支え合い活動を組織化したいという気持ちはあるが、高齢化が進んでおり、なかなか難しい状況である。
	３　地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑪ ・地域での声かけをしたり、地域でのイベント、広報紙（地区部会だより）、区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの発掘や育成に努めます。	・養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・昨年に続き、花見川いきいきプラザ、花見川いきいきセンターの職員を講師に迎え、２月１３日・１７日・２５日の３日間、健康体操教室を開催、高齢者の介護予防に努めるとともに、担い手の確保、担い手のスキルアップに努めた。 ・広報啓発については、８月と２月の年２回、地区部会だよりを発行し、地区部会活動の紹介を行った。 ・その他、地区部会の行事（グラウンドゴルフ、食事会等）を通じて、地区部会の広報啓発活動に努める。（グラウンドゴルフ３月４日・１２日・１６日実施、食事会３月３日・１０日実施）	○	・養成講座を開催し、新たな担い手の育成・確保に努める。 ・広報紙等を通じて、広報啓発に努める。	・担い手不足は、深刻な問題であるが、引き続き、養成講座開催や広報紙を活用した担い手の育成・確保に努める。
	３　地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑬ ・地域住民やこどもに地域の魅力や福祉をテーマとした研修・講座を開催します。 ・地域住民やこどもに地域福祉活動の体験の場を提供します。	・こども達の居場所（花見川団地こどもカフェ）の運営を継続するとともに、内容の充実に努める。	令和５年９月より、花見川団地内のレンタルスペース「はなみがわLDK＋」にて開始した、こども達の居場所「花見川団地こどもカフェ」の活動を継続した。 今年度も、毎月第２土曜日の１０時～１２時に実施、毎回１０名前後のこども達が参加している。令和８年１月は、JEFの選手によるイベントも企画、選手からランチョンマットのプレゼントもあり、子ども達に大変好評であった。学校からも子ども達に呼びかけなど協力をいただいている。	○	・こども達の居場所（花見川団地こどもカフェ）の運営を継続するとともに、内容の充実に努める。	・団地内に子どもが少なく、参加者が少ないのが課題である。
こてはし台地区部会エリア 【人口・世帯数】 5,684人、　2,904世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 43.4% 【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心（テラスハウス25%）の住宅街。	**１　心身の健康と交流の場づくり**	○	① ・いきいきサロン、散歩クラブ、健康体操、ふれあい食事サービスなどを実施します。 ・子育てサロン、こども食堂、こどもカフェなどを実施します。 ・要支援者（認知症高齢者・要介護者・障害者）やその家族が集える場づくりを行います。	・「喫茶室“つどい”」と交流の場を、同一箇所で実施することについて検討する。	・あんしんケアセンターこてはし台が主体となって開催している「〇〇カフェ」に協力した。	△	・「喫茶室“つどい”」と交流の場を、同一箇所で実施する。	・「〇〇カフェ」に協力していく。
	１　心身の健康と交流の場づくり	○	③ ・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	・地域運営会議に参画したので、連携し新規事業の検討をする。	・こてはし台中学校区地域運営委員会主催・共催の“グラウンドゴルフ大会”、“新春マラソン・ウオーキング大会”、“ブーメラン作り”の３事業に参加した。	◎	・新規事業の実施	・３事業に協力・参加していく。
	２　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑩ ・地域福祉活動にあたり、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンター、障害者基幹相談支援センター、学校、社会福祉事業者、企業、ボランティア団体、ＮＰＯ、企業など地域の多様な主体との連携強化を図ります。	・「地域ケア会議」で検討した課題について検討する。	・「地域ケア会議」で紹介された“どこシル伝言板”についてパンフレットを配布し周知した。	○	・「地域ケア会議」で検討した課題解決に向けて検討する。	・「地域ケア会議」での情報の収集を続ける。
	３　地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑫ ・広報紙の発行やホームページ、ＳＮＳ、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	・ホームページ内容の検討と同時にSNSの活用についても検討を進める。	・SNSでの発信を自治会と協力して実施している。	△	・ホームページ内容の検討と同時にSNSの活用についても検討を進める。	・自治会とも協議してホームページの内容充実のための体制づくりを検討する。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和７年度）【個票】

【達成状況（自己評価）の目安】
◎：年度目標以上のものが達成できた場合　○：年度目標が概ね達成できた場合
△：年度目標の一部が達成できた場合　×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

資　料　2

地区部会エリア	基本方針	重点取組項目	取組項目	令和７年度 目標又は予定	令和７年度 実績 ※任意記載として、振り返り（感想）	達成状況	令和８年度 目標又は予定	今後の課題と方針
天戸中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 16,839人、　8,044世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 31.7% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	**1　心身の健康と交流の場づくり**	○	②　・健康や介護予防をテーマとした講習会や研修会などを開催します。	・地域サロン活動の活性化と活動場所の拡大を推進する。	・地域におけるサロン活動の活性化を目指して、今までの活動をさらに発展させ、新たな活動場所の開発を求めて、自治会や町内会またあんしんケアセンターなどの協力を得て、サロン活動を行うことができた。	△	・地域サロン活動の活性化と活動場所の拡大を推進する。	・自治会や町内会などの団体だけでなく、幅広く地域住民にも呼びかけて、サロン活動の周知と関心を持ってもらうことを目指します。
	2　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑤　・既存のサロンなど身近な場所や専門機関による相談の場を設けたり、民生委員やあんしんケアセンターなどの相談先の紹介を行います。	・広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	・地域のふれあい活動やサロン活動の中で、あんしんケアセンターや民生委員などの相談先、あるいは専門機関など相談機関など相談対応などについて、具体的に紹介することができた。	△	・広報紙、ホームページ、SNS等を活用し、相談先の啓発活動を行うとともに、地区部会活動に相談機関を招き、参加の相談に対応する。	・自治会や町内会を通しての広報をするとともに、地域住民の個々に直接支援体制のあり方について、周知していきたいということを目指します。
	2　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑥　・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じても、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	・民生委員・児童委員の協力のもと、災害対応の研修会を実施し、緊急時の支援のあり方について確認するとともに、具体的な制度の紹介について、その活動の認識を深めることができた。	△	・民生委員等の関係機関と連携し、要支援者が利用できる制度を紹介する。 ・地区部会活動を通じても、緊急通報装置や安心電話の普及に努める。	・災害対応等のさまざまな研修を通して得た知識を、災害時等に実践できる体制・組織の構築が課題だと考えます。
	3　地域情報の発信と人材発掘・育成の仕組みづくり	○	⑫　・広報紙の発行やホームページ、ＳＮＳ、集いの場、イベントなどでの地区部会活動や地域福祉情報を発信します。	・広報紙・メールマガジン等を活用して地域への情報提供を促進するとともに、メルマガ会員数の拡大を目指します。	・福祉活動推進員、あるいは地域住民の参加協力を得て、広報紙を発行することができた。	○	・地域の福祉活動に協力的な団体・機関との連携を強化し、広報紙のみならず様々な情報発信の方策を工夫し実践する。	・広報紙の発行回数を増やして、さらなる情報発信を目指します。
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,301人、　5,454世帯 【町内自治会数】 14町内自治会 【高齢化率】 34.9% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	**1　心身の健康と交流の場づくり**	○	③　・世代の違いや障害の有無を超えた交流やイベントなどを実施します。 ・高齢者施設や障害者施設などでのボランティア体験や施設主催のイベントへ参画します。	・『福祉まつり』を年１回開催し、広い世代、障害の有無、立場を超え、地域の多くの人々が集い、福祉に親しむ機会を設ける。	・「福祉まつり」「犢橋貝塚１００年祭」は多くの地域の方の協力をいただき、つつがなく実施することができた。	○	・『福祉まつり』を年１回開催し、広い世代、障害の有無、立場を超え、地域の多くの人々が集い、福祉に親しむ機会を設ける。	・年１回の「福祉まつり」を継続。「犢橋貝塚１００年祭」で育んだ地域の絆を「福祉まつり」の継続で培う。
	2　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり	○	⑥　・要支援者等への見守り活動・安否確認活動の実施、緊急通報システムや安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・「ご近所のたすけあい」活動を実施。 ・ボランティア活動の周知と改善。ボランティアの確保に努める。	・「ご近所のたすけあい」活動を実施。 ・ボランティア活動の周知と改善。ボランティアの確保に努める。	○	・「ご近所のたすけあい」活動を実施。 ・ボランティア活動の周知と改善。ボランティアの確保に努める。	・「ご近所のたすけあい」活動を実施。 ・お年寄を対象とした食器等のバザーは検討したが、諸事情により断念。
畑地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,293人、　2,954世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 30.4% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	**2　支え合い、助け合いのできる地域社会づくり**	○	⑥　・要支援者等への見守り活動・安否確認活動を実施したり、緊急通報装置や安心電話の設置の普及を図ります。また、その充実・強化を図ります。 ・要支援者等への生活支援のための活動（買い物、ゴミだし、外出支援等）に取り組みます。また、その充実・強化を図ります。	・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行を継続実施する。	・朝のゴミ出しは、実績なし。 ・買物支援事業については引き続き毎月第４木曜日に実施、とても好評です。	○	・朝のゴミ出し支援活動を継続するとともに、広報活動に努める。 ・畑町ガーデンの送迎車を利用した買物支援事業の定期運行を継続実施する。	・朝のゴミ出し支援活動を継続、広報活動に努める。 ・日常的なゴミ出し支援の希望があるので、あんしんケアセンターにれの木台、健康課、畑町ガーデン等と相談し検討して行く。 ・畑町ガーデン送迎車を利用した買物支援事業の定期運航を継続実施する。